

1. テーマ

「ジェンダー」と「多文化社会」へのアプローチ

複合差別

ジェンダーを軸に考えるエスノセントリズム(自民族中心主義): マジョリティの思考を相対化する

- あなたは何民族?
- 3年間通名で通した高校時代の友人: 民族性を問われない私 / 民族性を隠さざるを得ない友人
- 一番切実なジェンダー問題は?

2. 複合差別: 外国人女性の受ける DV を例に

(ア) 性差別と民族差別の交差: 複合的要素の絡まり合いが DV を受けやすくする(複合差別の一側面)

複合的要素の絡まり合いに気づくこと

在留資格: 言葉・情報による格差

友人・家族など支援者が少ない / いない

夫(恋人)による民族(人種)差別

(イ) 救済制度における差別: 入管体制の維持 > 性暴力被害者の救済

3. ジェンダーを考える視点: 私(たち)の視点を相対化する

(ア) 「沖縄からの声」[補足: 辺野古]

「性暴力は構造的問題」VS 「日米安保という大きな問題を矮小化するな」

日本の「戦後」における「女性の解放」と「平和」

- 選挙権: 旧植民地出身女性にとっての複合差別

- なぜ日本の女性たちは沖縄の女性・在日の女性の問題を捉えることができなかつたのか?

(イ) 「ハーレムの少女とポストコロニアルのアイデンティティ」[岡真理]

「私(たち)」の視点を相対化する: 何が女性にとって「抑圧」なのか? 誰が決めるのか?

植民地主義的態度: 自分の問題として

(ウ) マイノリティの女性の存在を無視した「女性問題」「女性解放」「女性政策」

先住民族女性の主張: 民族自決、植民地主義、開発による暴力、etc.は「女性の課題」ではないのか?

4. まとめ

(ア) マイノリティ問題 = マジョリティ問題

(イ) 手がかり: 人種主義(racism)、植民地主義

< 参考文献 >

移住女性とDV

移住労働者と連帯する全国ネットワーク『ドメスティック・バイオレンスと人身売買』現代人文社、2004年

複合差別

反差別国際運動日本委員会編『マイノリティ女性が世界を変える! マイノリティ女性に対する複合差別』反差別国際運動日本委員会(発行)、解放出版社(発売)、2001年

鄭暎恵『フェミニズムのなかのレイシズム』江原由美子・金井淑子編『ワードマップ フェミニズム』新曜社、1997年

先住民族

藤岡美恵子・中野憲志編『グローバル時代の先住民族 「先住民族の10年」とは何だったのか』法律文化社、

2004年

上村英明『先住民族の「近代史」 植民地主義を超えるために』平凡社、2001年

人種主義

アルベール・メンミノ・菊地昌実・白井成雄訳『人種差別』法政大学出版局、1996年